

明石市立市民病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究に協力しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	公立病院における高齢がん患者のケアモデルに関する一考察
当院の研究責任者	塚本 正樹（循環器内科部長）
本研究の目的	<p>本研究の目的は、がん診療準拠点病院である明石市立市民病院におけるがん患者診療や地域連携の現状を明らかにし、主として高齢がん患者診療において明石市立市民病院が地域内で担うべき役割を見出すことである。</p> <p>がんは 1981 年以降、我が国において死因の第一位であり、生涯のうち 2 人に 1 人はがんに罹患すると推計されている。</p> <p>わが国では、2007 年にがん対策基本法が施行され、がん対策推進基本計画に基づいてがん対策が進められ、死亡率低下や 5 年生存率上昇などの成果が得られている。</p> <p>生存率の向上により、がんサバイバーが増えたことで、治療中から治療後までライフステージに応じてさまざまな支援が必要となってきており、特にがん患者の高齢化が問題となる。がんの平均発症年齢は 60 歳を超え、がん死の 85% が 65 歳以上となっており、平成 30 年に策定された第 3 期がん対策推進基本計画（2017～2022 年度）においても「高齢者のがんへの対応」について目標が設定された。高齢者においては複数の慢性疾患を併せ持つ多疾患併存が問題となる。併存疾患としては、呼吸器疾患、脳心血管疾患、運動器疾患、加齢による臓器機能低下、認知機能低下などがあるが、治療法が進歩した現在では、がん自体も慢性疾患として多疾患併存の一つとなっている。複数の併存疾患の影響で、がん標準治療を適応することはしばしば困難となるが、併存疾患を抱える高齢がん患者に対す</p>

	<p>る治療ガイドラインはまだ定まったものがなく、個別に治療を検討することとなる。その際には診療科をまたいだ合併症管理といった院内外での連携が必要となってくる。また、治療後の高齢がん患者においては介護や認知症への対応が必要となる場合も多く、在宅診療施設や介護施設などとの連携も必要となる。これらは当然、がん診療病院のみで達成できることではなく、地域において、切れ目ないケアを提供できる医療介護連携の仕組みが必要であると考えております。</p>
研究方法	<p>【対象となる方について】 地方独立行政法人明石市立市民病院にがん治療目的で入院し、2019年1月1日～2022年12月31日までの3年間に退院した患者</p> <p>【研究期間】 2023年4月1日～2023年7月31日</p> <p>【方法】 診療録（カルテ）及びDPCデータより以下の情報を収集し、観察研究を行う。</p> <p>【研究に用いる情報】 年齢、性別、主病名、併存疾患、入退院経路、在院日数、診療単価、繰り返し入院数、時間外受診数、各種加算算定状況、退院時看護必要度、介護認定状況など</p>
個人情報の取り扱い	<p>【個人情報の取り扱いについて】 研究の対象者を直ちに特定できる情報は削除し、研究用の番号をつけて取扱います。対象者と研究用番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋には第三者が立ち入ることはできません。また、研究の成果を発表する場合にも、対象者が特定できる情報を使用することはありません。</p>
お問い合わせ先	<p>電話：078-912-2323（代表） 担当者：塚本 正樹（循環器内科部長）</p>
備考	